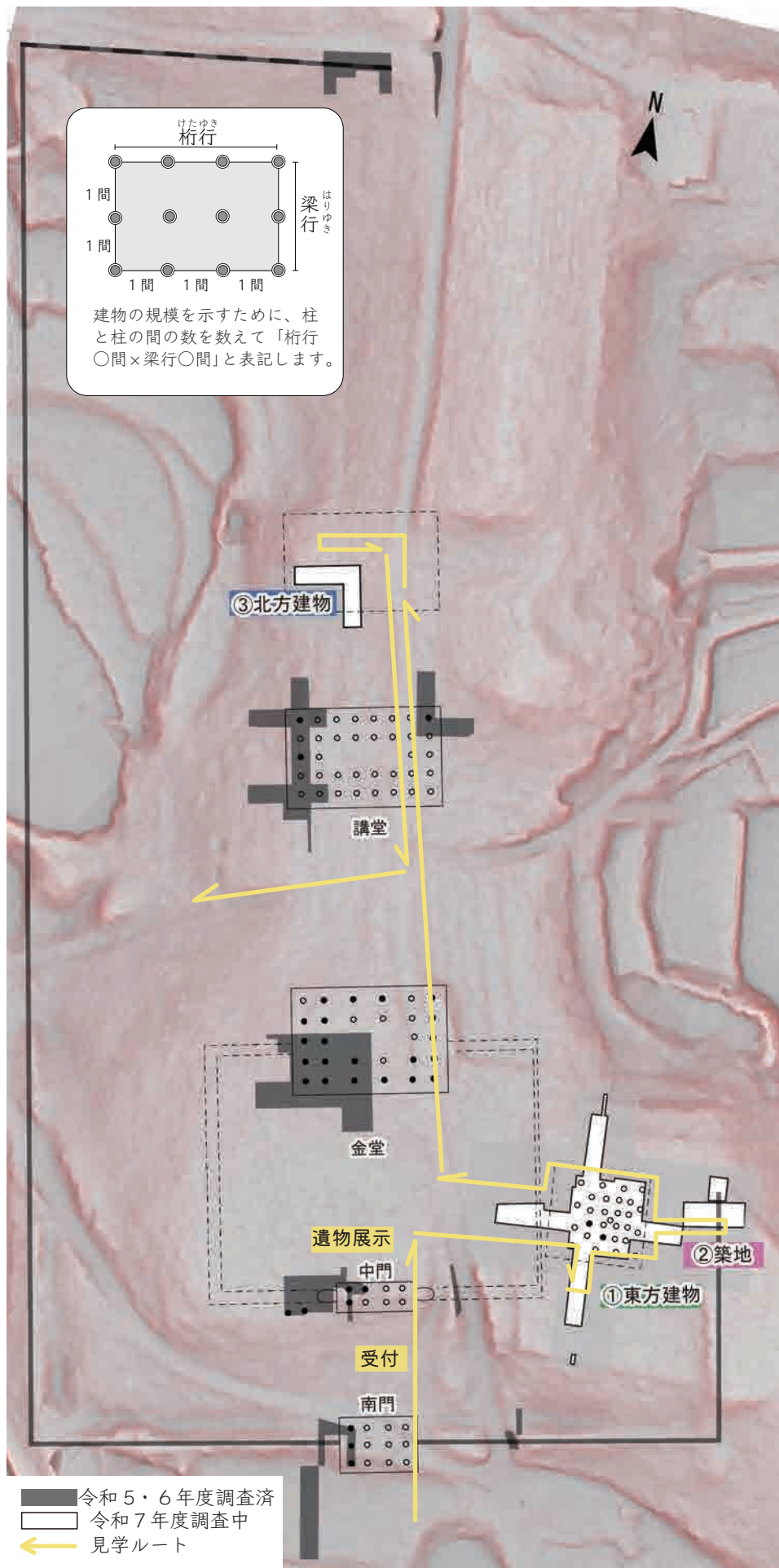


備中国分尼寺跡^{がらん}伽藍配置

※伽藍：寺院の建物の総称。



③北方建物

尼坊（尼僧が生活する建物）
か食堂とされていた。

講堂

【瓦葺礎石建物】
お経について学ぶための建物
＜建物の推定規模＞7間×4間
＜基壇の推定規模＞
東西25m×南北16m

金堂

【瓦葺礎石建物】
仏像をまつる建物
＜建物の規模＞5間×4間
＜基壇の推定規模＞
東西25m×南北17m

中門

【瓦葺掘立柱建物】
回廊内へ出入りするための門
＜門の推定規模＞3間×1間
＜基壇＋築地の推定規模＞
東西18m×南北4.8m

①東方建物

【瓦葺礎石建物】
平安時代中期（10世紀）の塔跡
＜建物の推定規模＞3間×3間
＜基壇の推定規模＞
東西14m×南北14m

②築地

寺院の周りを囲む塀

南門

【瓦葺礎石建物】
寺院へ出入りするための門
＜基壇の推定規模＞
東西12m×南北9m
＜門の推定規模＞3間×2間

『吉備路の歴史遺産』魅力発信事業

史跡 備中国分尼寺跡



古代瓦の復元動画を
公開しています！
ぜひご覧下さい！

場所：史跡 備中国分尼寺跡（総社市上林ほか）
日時：令和7年9月27日（土）
主催：岡山県古代吉備文化財センター

史跡備中国分尼寺跡は天平13（741）年に聖武天皇の命によって諸国に建てられた国分尼寺のひとつです。各国の国分尼寺では場所が確定しないものも多い中、備中国分尼寺跡は金堂の礎石や寺域を囲む築地が良好な状態で残されており、その重要性から大正11（1922）年に国の史跡に指定されました。

国史跡に指定されてから101年、ついに始まった令和5年度の調査では南門、中門、講堂、続いて令和6年度は金堂の調査を行いました。3年目になる令和7年度の調査では今まで不明とされていた東方建物、北方建物の調査を行っています。調査の結果、東方建物は平安時代中期の塔だということが分かりました。全国の国分尼寺では極めて珍しい事例となり、大変重要な成果といえます。



塔の基壇と瓦だまり（南西から）

※この資料は調査中の情報であり、最終的な結果ではありませんので、引用・転載はご遠慮願います。

①東方建物



a. 塔跡

中心に心礎とみられる抜取穴を確認したことで、塔跡だと分かりました。3間×3間で、塔一階は6.3mを測る正方形の建物です。



b. 瓦だまり

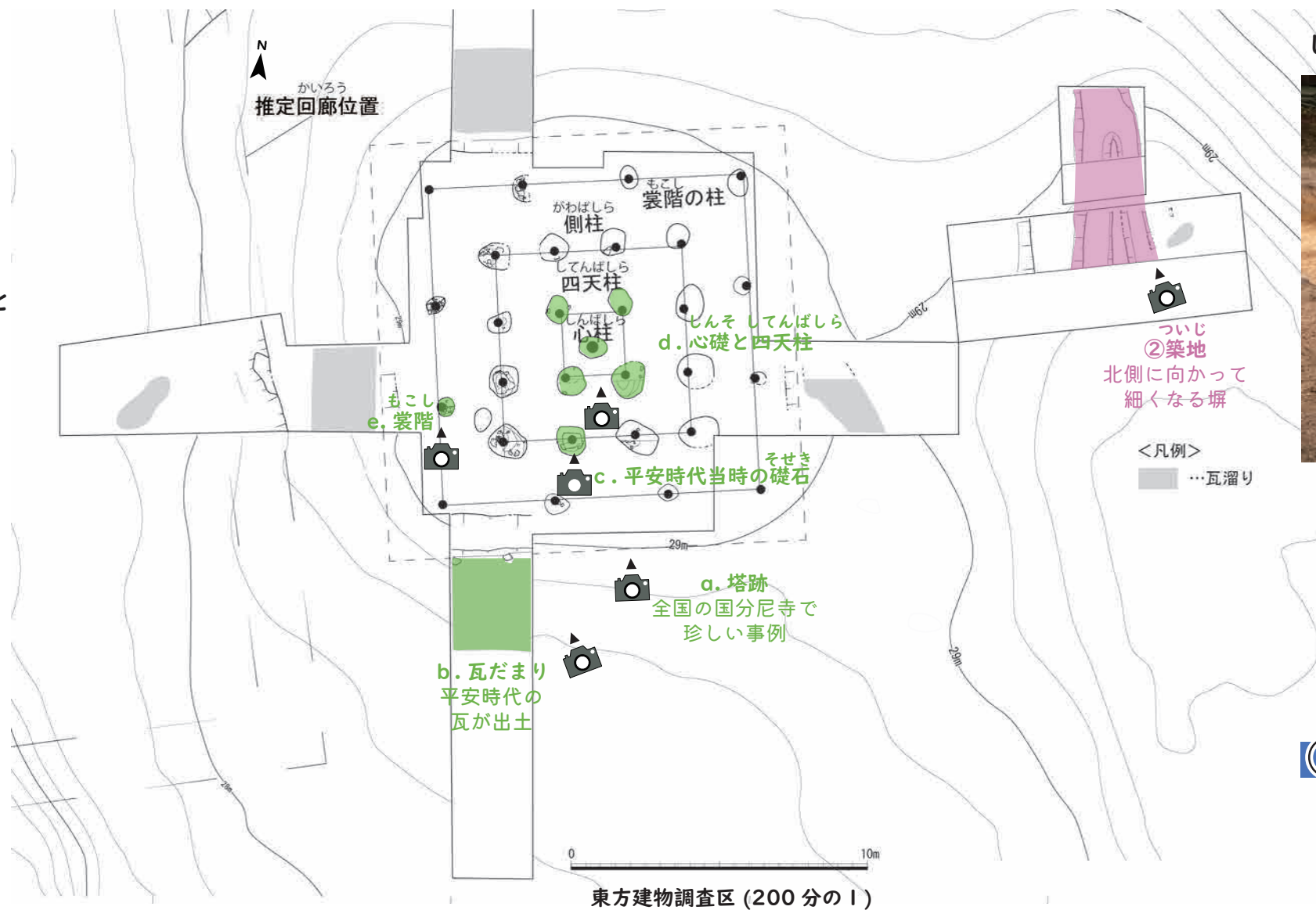
平安時代の特徴的な文様をもつ軒丸瓦などが出土しました。



c. 平安時代当時の礎石

今まで礎石は1つしか確認されていませんでしたが、調査で2つ目の礎石が見つかりました。この礎石は当時のままの場所をとどめています。

東方建物は塔跡、鐘楼（鐘が置かれていた建物）、経蔵（経典を納めた建物）など様々な建物が想定されていました。今回の調査で塔であることや、その規模・構造、創建年代を明らかにすることができました。



d. 心礎と四天柱

塔の中心には心柱を据える台石（心礎）と心柱の四方に建てる四天柱があります。調査ではそれらの抜取穴が見つかりました。

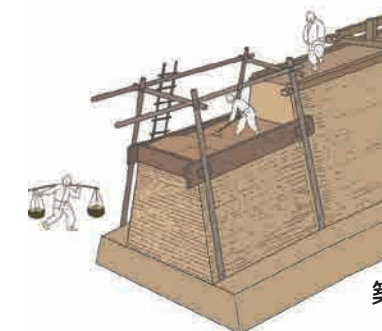


e. 裳階の柱

最も外側にある礎石の抜取穴から、裳階（塔の軒下に設置される庇）があることが分かりました。

②築地

築地は寺域を取り囲む土堀で、土を突き固めて（版築）作っています。今回の調査で、北に向かって細くなり、最後に途切れていることが分かりました。

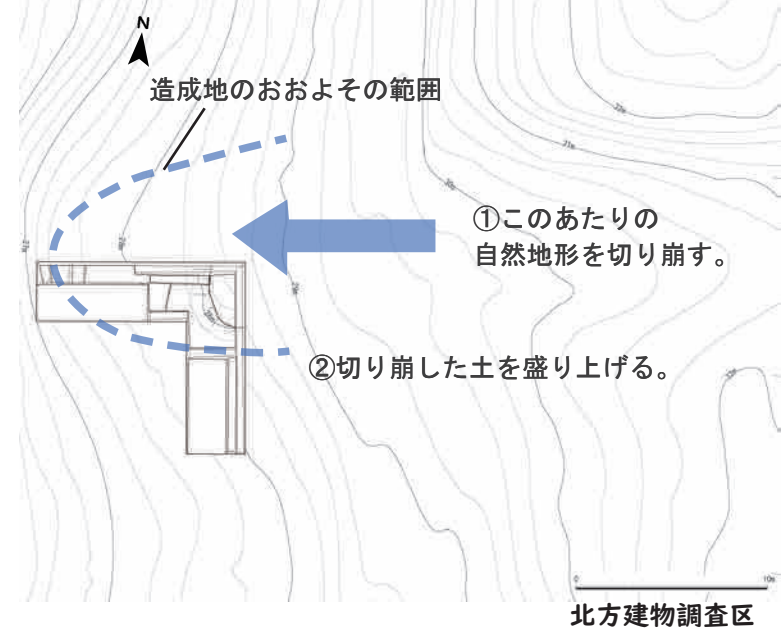


築地模式図

③北方建物

古代の造成地

講堂の北の平坦面に尼坊（尼僧が生活する建物）か食堂があるとされていました。今回調査区内では、平安時代以前に造成していることを確認しましたが、建物跡は見つかりませんでした。



北方建物調査区